

資料

日本の地域通貨に関する実態調査¹
結果の概略

与謝野有紀・熊野建・高瀬武典・林直保子・吉岡至

Summary Report on a Snowball Sampling Survey of
Local Currency in Japan

Arinori YOSANO, Takeshi KUMANO, Takenori TAKASE,
Naoko HAYASHI and Itaru YOSHIOKA

Abstract

This paper reports the results of a snowball sampling survey on the purpose, management, effect and problems of local currencies in Japan. We received 107 responses to a survey. The results show that: (1) Most of the respondents aim for the development of the local community, while less than 10 percent had the intention of renovating the regional economy. (2) Many respondents found problems in the lack of circulation and popularity of their currency.

Key Words: local currency, mail survey

抄 録

全国の地域通貨運営団体を対象に、目的・運営形態・効果・問題点等に関する郵送調査を実施した。調査対象によってさらに他の新しい対象を紹介してもらうスノーボール式サンプリングを行い、最終的に107の地域通貨からの回答を得た。単純集計結果をもとにすると、(1)地域経済の活性化を第一の目標にするものは全体の1割にみたく、コミュニティの再生などを目標にしているものがほとんどである。(2)問題点としては、使用が一回かぎりの場合が多く流通しにくいことや、活動が広がらないことをあげているものが多いことがわかった。

キーワード：地域通貨 郵送調査

1 本研究は、平成16年度関西大学重点領域助成金（研究課題「『地域通貨』による社会資本の効率的運用・再配分の可能性」研究代表者 与謝野有紀）によるものである。

1 調査の目的

近年、日本の各地で発生をみた地域通貨には、人々のつながり・地域コミュニティの再生、地域経済の活性化、環境意識の発揚、相互扶助の促進といった機能が期待されている。そして、国家により管理された通貨とは対照的に地域通貨自体が人々の自発的な運営と能動的・創造的な取組みを前提としている点からみて、地域通貨には典型といったものはじめから成立しているとは考えられない。やがては淘汰ののちにいくつかの類型に収斂する可能性はあるものの、注目を集め始めて間もない現時点においては、さまざまなかたちの地域通貨が同時発生し、試行錯誤の段階にある。

そこで、われわれはまず日本の地域通貨の形態をできるだけ包括的に把握するために地域通貨担当者に対する広範な全国規模のサーベイ調査を行った。サーベイ調査ではスノーボールサンプリング法による抽出をおこない、これにより、把握が難しいといわれる地域通貨に対して全国100余の地域通貨担当者から自由記述を含む詳細な回答を得た。

ここでは資料として、単純集計表によるその調査結果の概要を掲載する。

われわれの目的は単なる類型の構成にとどまらず、地域通貨における「成長」ないし「発展」の意味、そして成長ないし発展へと導く運営形態の把握・考案へと向かうものであるが、それについては別稿に譲りたい。

もちろん今回の調査はスノーボールサンプリング法によるため、ここに提示された単純集計表は、必ずしも日本のすべての地域通貨を母集団とする偏りのない標本であることを保証されるものではない。また、類型の把握という観点からみれば単なる単純集計ではなく、クロス表をはじめとする、より進んだ分析が必要となろう。とは言うものの類似の研究例が未だ少ない現状に鑑み、ここに提示された結果だけをもってしても地域通貨活動の現状の概略を知るうえで興味深いデータとしての価値を持つと考え、ここに提示する次第である。

2 調査の方法

1) 調査対象・標本抽出法

全国の地域通貨運営管理者を調査対象とした。最初にインターネットの情報検索等により連絡先を把握できた地域通貨109件に調査票を郵送した。同時に調査対象に対して、調査の趣旨に賛同してもらえ他の地域通貨の運営管理者の紹介を依頼した。紹介を得た調査対象に対して同様の調査と依頼をくりかえすことによりスノーボール式のサンプリング

を行い、さらに94件の運営管理者を加え、最終的には総計203の地域通貨運営管理者に調査票を発送した。

2) 調査方法

郵送法。回答者には後日謝礼として3,000円のギフト券を郵送した。また、質問票への回答に加え、運営に関する参考資料についても可能な場合には送付を依頼した。

(ア) 調査期間 平成17年1月～4月

(イ) 有効回答数・回収率

有効回答数は107件、回収率は52.7パーセントであった。

なお、調査の実施は社団法人中央調査社に依頼した。

3 結果

問1 そちらの地域通貨の名称と通貨の単位を教えてください。

通貨名称の文字種	度数	パーセント
カタカナ	39	36.4%
ひらがな	32	29.9%
漢字	17	15.9%
アルファベット	7	6.5%
混合	12	11.2%
合計	107	100.0%

(通貨単位の表は省略)

問2 運営団体の名称を教えてください。

問3 運営はどのような方々によって行われていますか。特に中心となっている方々について教えてください。(問2・問3ともに自由記述回答をアフターコードした)

名称をもとに分類した団体種別	度数	パーセント
NPO	29	27.1%
法人等 ¹⁾	11	10.3%
その他の団体	67	62.6%
合計	107	100.0%

1) 法人等のうちわけ 地方自治体(2件)、商工会(2件)、株式会社(2件)、社会福祉法人、その他の特殊法人、生協、自治会、老人ホーム(各1件)

問4 通貨の発行形式はどのようなものですか。(○はいくつでも)

発行形式	度数	パーセント
紙券	82	76.6%
コイン・チップ	3	2.8%
通帳	26	24.3%
ICカード	1	0.9%
オンライン	4	3.7%
その他	7	6.5%

(複数回答可のためパーセントの合計は100にならない)

問5 そちらの地域通貨を導入したときの主な目的はどのようなものですか(○はいくつでも)。

導入の主な目的	度数	パーセント
地域経済の活性化	50	46.7%
コミュニティの再生	84	78.5%
社会的弱者へ援助	27	25.2%
地球環境保全活動の促進	35	32.7%
地域の生活環境の改善	14	13.1%
地域の文化、伝統の活性化と継続	18	16.8%
その他	28	26.2%

→もっとも中心的な目的に◎印をつけてください。

	度数	パーセント
地域経済の活性化	9	8.4%
コミュニティの再生	32	29.9%
社会的弱者へ援助	2	1.9%
地球環境保全活動の促進	7	6.5%
地域の生活環境の改善	1	0.9%
地域の文化、伝統の活性化と継続	6	5.6%
その他	50	46.7%
合計	107	100

問6 そちらの地域通貨へはじめて参加するとき、参加者はどのようにして地域通貨を手に入れることができますか

	度数	パーセント
入会金または年会費と交換	26	24.3%
入会時に無料で	23	21.5%
入会時に円による寄付で	9	8.4%
サービスなどの提供によって	23	21.5%
その他	40	37.4%

問7 参加者は、日常的にどのようにして地域通貨を手に入れることができますか。（〇はいくつでも）

	度数	パーセント
個人へのサービス	81	75.7%
バザー等での販売	35	32.7%
ボランティア参加	62	57.9%
個人としての環境保全活動	12	11.2%
円の寄付・円との交換	25	23.4%
その他	19	17.8%

（複数回答可のためパーセントの合計は100にならない）

問8 そちらの地域通貨では、加盟の一般商店で利用することはできますか。

	度数	パーセント
地域通貨のみで、加盟の一般商店で商品・サービスを購入できる	9	8.4%
円と併用して、加盟の一般商店で商品・サービスが購入できる	42	39.3%
一般商店での利用はできない	53	49.5%
その他	3	2.8%
合計	107	100.0%

→ (加盟の一般商店で商品・サービスを購入できる場合 n=51)

問8-1 加盟店の数は何店舗くらいですか。

	度数	パーセント
1~20店舗	22	43.1%
21~40店舗	10	19.6%
41~60店舗	9	17.6%
61~80店舗	2	3.9%
81~100店舗	3	5.9%
101店舗以上	4	7.8%
不明	1	2.0%
小計	51	100.0%

問8-2 大型店舗 (大手スーパーなど) は加盟店になっていますか。

	度数	パーセント
なっている	4	7.8%
なっていない	47	92.2%
小計	51	100.0%

問9 そちらの地域通貨は、サービスやモノの購入以外に使い道がありますか。(○はいくつでも)

	度数	パーセント
地域の施設 (美術館や体育館など) の利用料として使用できる	4	3.7%
環境保護プロジェクトやボランティア団体に現金の代わりに寄付できる	14	13.1%
ミニコミ誌、ニューズレターなどの広告料として利用できる	8	7.5%
その他	18	16.8%

問10 そちらの地域通貨では、貯蓄残高がマイナスになることは許されていますか。

	度数	パーセント
紙券などのためマイナスにならない	73	68.2%
マイナスは許されない	6	5.6%
マイナスになることが許されている	28	26.2%
合計	107	100.0%

→問10で「マイナスになることが許されている」と答えた人に

問10-1 マイナスの限度額はいくらまで許されていますか。

	度数	パーセント
限度額がある	6	21.4%
限度額はない	22	78.6%
小計	28	100.0%

問10-2 メンバーの貯蓄残高はニュースレター、インターネットなどで他のメンバーに公開されますか。

	度数	パーセント
公開される	1	3.6%
公開されない	27	96.4%
小計	28	100.0%

問11 そちらの地域通貨は円に換金できますか。

	度数	パーセント
換金できない	89	83.2%
加盟店に限り換金できる	11	10.3%
参加者はだれでも換金できる	7	6.5%
合計	107	100.0%

→問4で「紙券方式を採用している」と答えた人に

問12 参加者が紙券を利用する場合に「裏書きをする」「シールをはる」といった手続きが必要ですか。

	度数	パーセント
通常の紙幣(円)のように、なんの手続きもなく利用できる	33	45.8%
使う際に、利用者が紙券の裏に「裏書き」をする必要がある	37	51.4%
その他	12	16.7%
小計	72	100.0%

問13 そちらの地域通貨は、利用しないでいると自然にその価値が減ってしまうような仕組みがありますか。

	度数	パーセント
利用しないでいても価値はかわらない	64	78.0%
価値が減ってしまう仕組みがある	18	22.0%
小計	82	100.0%

問14 現在、そちらの地域通貨の利用者（地域通貨を利用した、サービス・モノの交換活動に参加している人）は何人くらいですか。はっきりと把握していない場合には、推測でお答えください。

	度数	パーセント
0～19人	12	11.2%
20～39人	14	13.1%
40～59人	13	12.1%
60～99人	8	7.5%
100～199人	19	17.8%
200～299人	13	12.1%
300～999人	9	8.4%
1000人以上	15	14.0%
不明	4	3.7%
合計	107	100.0%

問15 この1～2年間で、利用者の人数に変化はありましたか。

	度数	パーセント
かなり増えた	13	12.1%
やや増えた	34	31.8%
あまり変わらない	31	29.0%
やや減った	8	7.5%
かなり減った	8	7.5%
不明	13	12.1%
合計	107	100.0%

問16 そちらの地域通貨を使つての個人間のやりとりは、1ヶ月あたり全体でおよそ何回くらいですか。
 正確に把握出来ていない場合でも、推測できる範囲でお答えください。また、取引量を把握する方法がないなど、わからないときには「X」に○をつけてください。

	度数	パーセント
0~0.9	5	4.7%
1.0~4.9	15	14.0%
5.0~9.9	6	5.6%
10.0~19.9	9	8.4%
20.0~99.9	7	6.5%
100.0以上	4	3.7%
不明	61	57.0%
合計	107	100.0%

問17 この1~2年間で、個人間でのやりとりの回数に変化はありましたか。

	度数	パーセント
かなり増えた	6	5.6%
やや増えた	18	16.8%
あまり変わらない	36	33.6%
やや減った	9	8.4%
かなり減った	8	7.5%
不明	30	28.0%
合計	107	100.0%

→(以下の問18・問19は、そちらの地域通貨が一般商店で利用できる場合(問8で「地域通貨のみで、加盟の一般商店で商品・サービスを購入できる」か「円と併用して、加盟の一般商店で商品・サービスを購入できる」に○をした方)のみお答えください。(n=51)

問18 そちらの地域通貨の一般商店での利用は、1ヶ月あたり全体でおよそ何回くらいですか。1回の利用金額にかかわらず、だいたい回数でお答えください。正確に把握出来ていない場合でも、推測できる範囲でお答えください。また、取引量を把握する方法がないなど、わからないときには「X」に○をつけてください。

	度数	パーセント
1回未満	2	3.9%
1～4回	3	5.9%
5～9回	4	7.8%
10回	5	9.8%
11～49回	6	11.8%
50回	5	9.8%
100回	1	2.0%
不明	25	49.0%
合計	51	100.0%

問19 この1～2年間で、一般商店での利用回数に変化はありましたか。

	度数	パーセント
かなり増えた	3	5.9%
やや増えた	18	35.3%
あまり変わらない	14	27.5%
やや減った	1	2.0%
かなり減った	2	3.9%
不明	13	25.5%
合計	51	100.0%

全員に

問20 そちらの地域通貨は、特定の地域を対象にしていますか。

	度数	パーセント
はい	73	68.2%
いいえ	32	29.9%
不明	2	1.9%
合計	107	100.0%

→以下の問21～問24-1は問20で「はい」と答えた方に（n=73）

問21 そちらの地域通貨を導入したことで、地域住民の相互扶助関係が促進されたと思いますか。

	度数	パーセント
かなり促進された	13	17.8%
やや促進された	43	58.9%
ほとんど変わらない	16	21.9%
不明	1	1.4%
小計	73	100.0%

問22 そちらの地域通貨を導入したことで、地域経済が活性化されたと思いますか。

	度数	パーセント
かなり活性化された	3	4.1%
やや活性化された	21	28.8%
ほとんど変わらない	46	63.1%
不明	3	4.1%
合計	73	100.0%

問23 そちらの地域通貨を導入したことで、地域住民の環境意識が高まったと思いますか。

	度数	パーセント
かなり高まった	8	11.0%
やや高まった	22	30.1%
ほとんど変わらない	41	56.2%
不明	2	2.7%
合計	73	100.0%

問24 そちらの地域通貨に参加する資格についてお聞きします。

問24-1 参加者の居住地域に制限はありますか。

	度数	パーセント
ある	29	39.7%
ない	44	60.3%
小計	73	100.0%

以下は全員の方に

問24-2 はじめて地域通貨に参加する際に紹介者は必要ですか。

	度数	パーセント
必要	13	12.1%
不要	94	87.9%
合計	107	100.0%

問24-3 その他に、参加者に対する資格の制限がありますか。

	度数	パーセント
ある	12	11.2%
ない	92	86.0%
不明	3	2.8%
合計	107	100.0%

問25 入会費、年会費はありますか。あれば、その金額を教えてください。

(a) 入会費の有無

	度数	パーセント
有	24	22.4%
無	83	77.6%
合計	107	100.0%

→（入会費が「有る」と答えた方に $n=24$ ）

あれば、その金額を教えてください。

	度数	パーセント
500円未満	2	8.3%
500円	6	25.0%
1000円	9	37.5%
1500～2000円	3	12.5%
3000円以上	4	16.7%
小計	24	100.0%

(b) 年会費の有無

	度数	パーセント
有	31	29.0%
無	76	71.0%
合計	107	100%

→（年会費が「有る」と答えた方に $n=31$ ）

あれば、その金額を教えてください。

	度数	パーセント
1000円未満	5	16.1%
1000円	11	35.5%
1200円	6	19.4%
1500～2000円	4	12.9%
3000円以上	5	16.1%
合計	31	100.0%

問26 そちらの地域通貨は行政機関と連携していますか。

	度数	パーセント
連携している	37	34.6%
連携していない	68	63.6%
不明	2	1.9%
合計	107	100.0%

→ (問26で「行政機関と連携している」と答えた方に n=37)

問26-2 補助金を受けていますか

	度数	パーセント
補助金を受けている	19	51.4%
補助金を受けていない	15	40.5%
不明	3	8.1%
合計	37	100.0%

問27 そちらの地域通貨は大学やシンクタンクなどに所属する（あるいは、所属していた）方のアドバイスを受けて運営していますか。

	度数	パーセント
アドバイスを受けて運営している	28	26.2%
アドバイスを受けていない	76	71.0%
不明	3	2.8%
合計	107	100.0%

問28 そちらの地域通貨は他の地域通貨と提携していますか。

	度数	パーセント
提携している	14	13.1%
提携していない	93	86.9%
合計	107	100.0%

問29 そちらの地域通貨では、機関紙（メールマガジンを含む）を発行していますか。発行している場合は、その発行回数を教えてください。

	度数	パーセント
発行している	49	45.8%
発行していない	58	54.2%
合計	107	100.0%

→ 年間発行回数

	度数	パーセント
1～3回	6	12.2%
4～5回	18	36.7%
6～11回	10	20.4%
12回	9	18.4%
13回以上	3	6.1%
不明	3	6.1%
合計	49	100.0%

問30 そちらの地域通貨では、メーリングリストを運営していますか。

	度数	パーセント
運営している	31	29.0%
運営していない	75	70.1%
不明	1	0.9%
合計	107	100.0%

問31 地域通貨の流通を促進させるために何かイベントを開催されていますか。

	度数	パーセント
開催していない	32	29.9%
開催している	75	70.1%
→ (問31-3) 開催内容について教えてください。(複数回答)		
	(度数)	(パーセント, n=107)
(講演会・シンポジウム等)	13	12.1%
(バザー・フリーマーケット等)	27	25.2%
(その他の会員間親睦行事)	34	31.8%
(対外ボランティア・文化活動等)	17	15.9%
合計	107	100.0%

→ (問31で「開催している」と答えた方に n=75)

開催頻度は、年()回くらい

	度数	パーセント
1回	17	15.9%
2回	9	8.4%
3回	5	4.7%
4回	6	5.6%
5~6回	7	6.5%
7~12回	19	17.8%
13回以上	9	8.4%
不明	4	3.7%
合計	107	100.0%

問32 地域通貨導入目的と現状を比べ、うまくいっている点やうまくいっていない点を教えてください。(運営者の主観的な評価で結構です)

○問32で「うまくいっている」点に言及しているかないか

	度数	パーセント
うまくいっている点に言及していない	74	69.2%
うまくいっている点に言及している	33	30.8%
合計	107	100.0%

※「うまくいっている」点の例

- ・仲間づくり(コミュニティ)には良い道具です
- ・団体の活動を円滑に行うための手段として地域通貨を導入しました。その意味では目的を達成していると考えています。
- ・うまくいっているorいっていないの評価はしばらく、みんな楽しくやっています。
- ・信頼関係に結ばれる人づくり、仲間づくりを基盤に地元商店の活性化を目ざす。あせらず、じっくりと取り組み、徐々に成果を収めている。
- ・広報誌の発行、商店会との連携
- ・話題性、人気性
- ・会員以外の個人、店舗で流通している。特徴の1つである環境活動への支援に寄付している。
- ・当初見ず知らずの人達が知り合い交流できるようになった。

- ・知らない人と知り合える事がよかった。
- ・ともかく継続されていること。（どこかで人々のニーズに自然とマッチしているという事）
- ・地域における人と人との絆を深めるという目的は、エコマネーの使用により、少しは果たせていると思う。
- ・市民やまちづくり協議会、学校等への浸透。地域に既存している団体やグループと連携が進んだ。
- ・コミュニティ再生はうまくいっていると思う。特にネットワークの広がりを見えるものがある。
- ・子供や青年、近隣の方の交流がはかれだした。
- ・会員同士のネットワークはほぼ満足。相互援助が発展。財源確保も身の丈にあった程度まかなえている。
- ・異世代交流の際の謝礼について考えていたが、通貨を利用することで、双方向のボランティア活動に結びつけることができ良かった。気軽に困りごとを相談でき、親ぼくが深まった。
- ・高齢者等には、地元で使える（移動販売等での利用も可）商品券ということで喜ばれている。
- ・導入目的である ① 行政コスト削減 ② 公共交通振興 ③ 個人評価 ④ 環境保全の推進に寄与できており、現状の活動にほぼ満足しています。
- ・地域を限定せずに人と人とのゆるやかな連携をとるという導入目的は、少しずつではあるが人的ネットワークの拡がりという点で、成果をあげている。農作業等のいわゆる「手間替え」的なサービス交換は、有効に機能している。
- ・NPO間の連携や協力関係づくりに役立っていると思われまます。
- ・今まで市民活動に関心のなかった商店主などが地域づくりに対して興味を示したり、商業活動で地域に貢献したいという意志が表に出てきたようです。
- ・温かさが加わり、受け入れてもらえやすかった。
- ・ネットの連携で学校が参加してくれた。
- ・地域通貨を導入することによって、少しでも友好的な状態になったと確信している。
- ・① 安心材料や生活の質を高めている。② 誰に頼ることができるのか、安心の情報のよりどころとして、メニューリストが役立っている。
- ・全体的にみて、うまくいっていると思います。

- ・取得希望者がマスコミ報道により、河川清掃に参加増となった。
- ・子育て支援と言っても、具体的に助けてもらえることはないので、自分たちでルールを作り、助け合うことにしました。地域通貨を聞き、日頃やっているのを参考にし、それなりにやってきました。
- ・年々、認知度は高まっている。
- ・公的なサービスの対象とならない「ちょっとしたお手伝い」や「ボランティア」の必要性があらわれたと思う。
- ・ニュースレターの定期発行（月1回）、交流会開催など、会員間の情報交換や循環促進のための施策を継続して行える様になった点は評価できる。
- ・行政や社会福祉協議会では出来ない「すき間」に手がさしのべられた。思いにもよらないニーズ（して欲しい事）がある事に気づく。
- ・友達の輪が拡がり、ボランティア意識が向上し、具体的行動につながっている。
- ・うまくいっている。
- ・メンバーの特性をいかす。

○問32で「停滞」もしくは「休眠」状態にあると答えた事例数

	度数	パーセント
停滞もしくは休眠状態	7	6.5%
それ以外	100	93.5%
合計	107	100.0%

○「うまくいっていない点」は何か（自由回答をアフターコード。複数回答）

	度数	パーセント
流通しない	22	20.6%
普及が広がらない	15	14.0%
管理・運営が困難	14	13.1%
意義が十分に生かされていない	10	9.3%
趣旨・仕組の周知理解が困難	10	9.3%
需要と供給にギャップ	6	5.6%
会員相互のコミュニケーション	6	5.6%
合計	107	100.0%

● 「流通しない」事例について

- ・登録件数やサービス件数に比べ利用者が少ない。
- ・会員登録をしているが使用していない会員が多い。
- ・店に地域通貨がたまってしまい、そこから流れない。店の経営者の参加意識の希薄化。
- ・商店加盟者から通貨が落ちてこないという意見あり（コレクション目的で通貨を手にする人もいるため）。しかし、必ずしも悪い事とも限らない（手にした人の自由だから）。
- ・受入店に集まった通貨の流通が一つ（今一つ）。
- ・参加者が少なく、利用頻度がほとんどない。
- ・興味はあっても実際に取引される事が少なかった人が多かった。
- ・通貨の交換も減少している。
- ・利用している方は継続して利用しているが、利用していない人は全く利用していない。
- ・一部の人だけの活動になっている。職員が働きかけないと通貨がまわらない。
- ・サービス内容に偏りがあり、多様なサービス交換とはなっていないため、利用者が限定されてきている。
- ・使う場面の設定が難しく、フォーラムのみでの使用にとどまっている。
- ・当初より流通が一部の人にかたよってきた。
- ・遠慮があるものと思われ、通貨の交換（流通）機会が少ない。
- ・店舗利用者（相互）があまり進まなかった。
- ・通貨の循環が出来ない（一方通行）。
- ・しっかりとした循環の道筋がつくことが必要で大変困難な道のりである。
- ・協力店での利用は少なく、またサービス提供の面においても「知らない人には頼みにくい」という問題を解決できず、地域通貨の流通は少なかった。
- ・地域通貨を活用できる場が少ない。地域通貨の循環に偏りがある。
- ・通貨の循環も一部の会員間では盛んだが、全く使えていない会員もあり、温度差が大きいようだ。
- ・「流通」する事がむづかしい。
- ・知り合いどうしでのやり取りが多く、あまり知らない人との交換がない。

● 「普及が広がらない」事例について

- ・地域性がないため導入が難しく、停滞している。
- ・使える店舗が関東に集中している。
- ・受入店の拡大と認知度不足。

- ・円に換金出来ないので、普及していない。専従のマッチングコーディネーターがいないので、サービスの取引きに至る手段がなく、普及・利用していない。商店で使用出来ないなので、普及していない。
- ・導入目的は、コミュニティの再生だったが、参加者が少ない。
- ・地域へ浸透させるのが課題。
- ・会員の人数が頭打ち。
- ・地域経済に対する影響も非常に限定的。(流通量が少ない)
- ・参加者が増加しない。
- ・近所にエコマネー会員がいらない。(少ない)
- ・思う様には会員数も増えず……
- ・商店街の加入数が思わしくない。
- ・会員拡大の努力が不十分。
- 管理・運営が困難な事例について
 - ・会員人数が増えすぎて管理体制がおいつかない。
 - ・活動スタッフ(役員)の人出(人的パワー)不足がある。
 - ・アピール方法、人材面での不足が大きい。
 - ・最初は順調だったのですが、中心になっていた人が、個人的事情で役割を果たせなかったため、ほぼ休眠してしまいました。システムが確立するまでのコーディネーターの役割の重要性を認識しました。
 - ・専従のマッチングコーディネーターがいないので、サービスの取引きに至る手段がなく、普及・利用していない。
 - ・コーディネーターが病死され、運営が難しくなっている。
 - ・事務局体制が悪い。
 - ・事務局の負担軽減。メンバーの自主性の育成(企画・運営に対する責任感)。事務局がいなくても循環する環境づくり。
 - ・運営者が忙しくて会員拡大の努力が不十分。
- 「地域通貨としての意義が十分に生かされていない」事例について
 - ・エンデの遺言の「すべての根源はお金にある」の実現にはほど遠い。
 - ・に地域通貨がなくても助け合いはやっている」のが実態でもあるようで、04年度は「見直し」を進めてきた。
 - ・相互扶助が思ったより行われていない。

- ・お互いに知り合う回数が増えると通貨のやりとり無しで、サービスを行うようになる傾向が強い。
 - ・地域通貨と言うより、生涯学習交換券の意味合いが強い。
 - ・金融システムや人とお金の関係に対する批判精神を高めるという狙いは、今のところ効を奏していない。
 - ・福祉を目的として発行しているが、本来の目的より商店での利用（割引等）が多い。
 - ・なかなか、地域通貨本来の働きができていない。地域商店の高齢化による売上高の微減状態も厳しい。
 - ・目的に対する理解は広がってきたが、まだまだ大きな運動には展開できていない。
 - ・知り合いどうしでのやり取りが多く、あまり知らない人との交換がない。また、わざわざエコマネーを交換しなくても助け合いが定着しつつある。
- 「趣旨・仕組の周知理解が困難」な事例について
 - ・仕組みの理解
 - ・先ずは、地域通貨というものに馴染みがなく、市民の方々に理解して頂く上で、時間がかかっている。
 - ・協賛店が増えたが、地域通貨の主旨を理解してもらえない店（商品券のように扱う）もあり、周知には何度となく集まりを持つ必要がある。一般の人に知ってもらうには広告よりも口コミの方が有効であるように思えるが、今のところその広がりを作れない。
 - ・商品券的扱いでなく、割引券としての扱いのため、仕組みが慣れるまで複雑。
 - ・導入目的を理解してもらうことの難しさが今後の大きな課題である。
 - ・地域通貨の理解が一般になかなか浸透せず、同好会的になっている。
 - ・一層の普及に向けたシステムが必要。
 - ・エコマネーに対する正しい理解が得られていない。
 - ・まだまだ普及や知名度に問題があると思っている。
 - ・地域通貨自体がなかなか町民に理解されない。普及しない。
 - 「需要と供給にギャップ」の事例について
 - ・助け合いという点では、助けたい人と助けられたい人のバランスがとれていない（助けてほしい人が多い）。
 - ・介護保険制度の導入により、タイムストックが激減した。また従来から互換がうまく機能していない。

- ・参加されている方々は相互扶助の必要性を強く感じている一方、してさしあげる側が圧倒的に多くなる傾向である。してもらうことが弱みに思えるのか？求める事へのちゅうちょが見られる。
 - ・供給するボランティアはあっても、需要（ボランティアを必要とする）が少ない。遠慮があるものと思われ、通貨の交換（流通）機会が少ない。
 - ・提供する側、される側のニーズがマッチングできていない。
 - ・現在は若い入会者が少く、高齢者が多いため、労力提供出来る人が減ってアンバランスになっている。
- 「会員相互のコミュニケーション」の事例について
- ・一方通行的な利用
 - ・加入者間のやり取りができるツールがなく、事実上活動は停滞している。
 - ・世代間交流：高齢者のグループの様。
 - ・見知らぬ人同士が率先して連絡をとりあうことが難しい。
 - ・協力店のPR、配布活動の拡大
 - ・体験ツアー中は活発に活動されているが、終了後は動きがにぶる

問33 地域通貨の現状を考えて、改善が必要だと思われる点がありましたら教えてください。（自由回答。以下の見出しは調査者がアフターコードした）

- 流通促進に関して
- ・もっとみんなに近いツール（ケータイメール、ポイントカード等）にならなければ
 - ・モバイルを活用した通貨について検討
 - ・通貨自体に何らかの付加価値のあること
 - ・円と換金できるシステムの構築
 - ・地域通貨のたまった人に使える物を提供する
 - ・より多くの利用を促すため、サービスの多様化が必要
 - ・消費税等の規制緩和
 - ・流通を促すために、交流会等のイベントを定期的に仕掛ける必要がある
 - ・「やりとり」することが楽しくなるしくみづくりがポイントだと考えています
 - ・紙券型の地域通貨は、プリペイドカード法の規制を受けており、流通に期限をもうけなければなりません
 - ・どんなことでも気軽にための関係づくりの拡大

●普及に関して

- ・お店などの協力店をもっと増やしたい
- ・通貨発行窓口の多様化
- ・学生だけでなく幅広い年齢層に認知してもらえば広がっていくと思います
- ・商店街との協働で地域商店街活動化の実験に取り組んでいる
- ・地域通貨ではなく、地域共通ポイントのようなイメージが良い。今年はイメージチェンジをはかる
- ・全国消費者（観光客等）への地域通貨の発行、地場産品販売、交流体験事業等と連携した取り組みを検討中
- ・市町村が合併したので、各グループとの通貨交流ができるようにもしたい。
- ・他の地域通貨との互換検討
- ・地域通貨の利用が広がるための仕組みづくり。他の市民活動グループ、行政等との連携・地域通貨の活用と域内循環を考えた政策、ビジョンづくり

●管理・運営に関して

- ・本当に地域通貨を愛し、広めようとするスタッフ
- ・企画提案が地域の人たちからより主体的、積極的に提案が出されるムードをつくりたい
- ・マッチングコーディネーターの専従スタッフの常勤、並びにその費用の捻出
- ・あまり仕組みを複雑にしない方が良いと思う。運営に手間をかけないことが長続きするコツ
- ・サービスメニューを地域に最も必要な物にしぼり込み、常に会員外の地域住人に観えるようにすることが大切である
- ・行政の補助的がなくなったときの自立運営できる態勢が課題
- ・行為の交換の場合は、コーディネーターを置いた方がコミュニケーションが軟かくつなげられると思える
- ・主となる人が、ある程度時間がとられるので、その人に対し給料が払えれば、より良くなっていくと思う。そんな経費を市で見てくれたらと思うけど、今回のようなアンケートを書くことで、その辺を特に伝えたい

●地域通貨の意義に関して

- ・資金的にまわっていく仕組みが必要
- ・運営の仕組の中でやりくりできないとうまくいかないと思う

- ・サービスの提供者（あるいは受益者）の顔が見えること
 - ・地域通貨で地球温暖化防止をという仕組みづくりを検討しています
 - ・現金の引き替え、代替に使用することには疑問が残る。使用方法の整理が必要な団体もあるのでは。
 - ・生活密着活動への地域通貨導入は、リスクが大きく、リスクマネジメント出来ない限り、やらない方が良く。危険がない、くさらない等知的サービスの交換に使う（生涯学習）ことを基本としている。
 - ・エコマネーだけでも広がりにくいし、地域通貨だけでも味けない。現在はこのハイブリッドなものが求められているのではないのでしょうか。
 - ・大事なのは、「ニーズありき」で始めること。地域通貨はニーズを作り出せるくらいのインパクトの接続するツールではありませんから。
 - ・高齢者は、他人のために何かするのはあたりまえと思っているので、地域通貨はいらないと言う人が多い。地域通貨の考え方が年齢にあわない感じがする。
 - ・3年間の流通実験を終了し、経済の活性化とコミュニティの再生という2つの目的を同時に達成させることは難しいことがわかった
- 趣旨・仕組の周知・理解に関して
 - ・交流会、イベントの開催、地域住民への啓発など
 - 受給ギャップ解消に関して
 - ・それぞれの利用の仕方を思い出してあげること
 - ・オンライン決済と紙券、顔のみえるやりとりとのバランスのとり方
 - 会員間コミュニケーションに関して
 - ・HP上に掲示板を設けたり、メールNEWSの発信などツールを開発すること
 - ・サービス情報の共有化→会員のPC利用率が少ないため、月1会合の通信をEメールとFaxで送っているが、タイムリーではないので、情報が生きてこない
 - ・個人情報の扱いなどがあるため、新規参加者には面接を行うなどの安全を期す必要

問34 地域通貨を利用する際に、その価値は何を基準にはかられていますか。あてはまる表の番号に○をつけ、その基準とそちらの地域通貨の対応関係を教えてください。

(結果省略)

問35 最後に、そちらの地域通貨のこれまでの運営状況についてお聞きします。発足以来の形式、参加者数等の推移をご記入ください。
変化のない部分は「〃」で、不明な部分は空白で結構です。通貨が実験段階で発足後、休止期間がある場合は該当部分に斜線を引いてください。
正確な人数などがわからない部分も、できるだけ推測でご記入ください。最後の段が2004年になるまでご記入いただければ幸いです。

（結果省略）

—2006.1.18受稿—